

エコ発する事業評価委員会 議事録

日時：平成 30 年 6 月 4 日（月） 14：00～16：00

場所：福岡市役所本庁舎 15F 1503 会議室

出席者：エコ発する事業評価委員会 5 名〔松藤会長，久留副会長，松岡委員，薛委員，花田委員〕
発表団体 2 団体 ※外 2 団体については，事務局より申請内容について説明
事務局 5 名

◆申請団体による事業計画の説明（1 団体 18 分：発表 10 分，質疑応答 8 分）

以下，質疑応答内容〔A：委員，B：団体〕

1 特定非営利活動法人 はかた夢松原の会

A：順調に成果が出ていると思うが，来年度以降も活動は継続する予定か。

B：今後も継続していく。

A：場所は国体道路で続けていくのか。

B：今は国体道路と考えているが，大博通りに繋いでいきたいという考えもある。今は大博通りに一カ所だけ花壇を置いている。中洲は難しそうだ。

A：国体道路の人通りは近年格段に多くなり，また，外国人の割合が増えたので，新たな課題があるのではないかと思う。外国語のビブスを着用して活動していることで，外国人観光客のマナーも良くなるのではないかと思う。

B：国体道路にディスカウントストアができてから，街が非常に汚くなったので，店長に相談に行ったところ，店の前に並べているイスに日本語，英語，韓国語，中国語で注意文を掲示してくれた。それから，最初の頃より少し良くなった。

A：外国からの観光客の方にもこの活動を知ってもらうため，活動の概要をハガキなどで配るといいと思う。できれば，観光客の方にも活動に参加して欲しいとも思う。韓国の花や中国の花を植えるゾーンを作ったりすると，少しでも興味を持ってもらえるのではないか。2020 年に再び福岡を訪れる人もいるかもしれないので，リピーターに向け，新たなイベントや取組みを。

B：取り組めるよう検討したい。

2 樋井川グリーンメイト

A：既に活動をしているのか。

B：メンバーは全員緑のコーディネーターとして長年活動しており，それぞれ自分たちの活動のベースもある。

A：今回，補助金を 50 万円申請しているが，これまでの活動の資金はどのように工面していたのか。

B：花壇作りに対しては，緑のまちづくり協会から 1 花壇あたりいくらかという形で助成金をもらっていたが，それだけでは基本的な活動ができないので，今回エコ発する事業の申請をした。

A：最終的な目的は，博多湾から油山に緑の回廊を作ることか。

B：そうである。そしてそれを健康道路として行き来できるようにしたい。樋井川はきれいな川で生物がたくさんいるので、子どもたちにも行き来することで色々な自然環境を見せたい。高齢者には、行き来することで健康になってもらいたい。

A：樋井川を中心とした活動だったら分かるが、花苗の配布や基地作りなど、色々な話があり、やりたい活動が判然としない。

B：基地がなければ活動ができない。活動後に反省会をする場所も必要だし、公民館以外に地域のコミュニケーションをとる場所が必要と思い、作っている。

A：樋井川を清掃してきれいにしたり、草刈りをしたり、交流したり、子どもたちに教えたりということかメインの活動か。

B：そうである。そして、海から山へ繋がった細長い公園ができたらいと思う。

A：子どもたちを集めるのは、具体的にどのようにするのか。

B：「水と緑の楽校」など、子どもの教育をやっている団体と協力しようと考えている。

A：他の団体との連携は、これから始めるのか。それとも既に連携しているのか。

B：既に連携している。かるがもテラス（今後整備予定の活動拠点）も他の団体と共同で使いたい。

A：あめにわ憩いセンターは、無償で使えるのか。既に使っているのか。

B：無償で借りている。

A：年間を通してどれくらいの人数が集まると見込んでいるのか。

B：鳥飼校区から上流の校区まで連携しているので、500～1,000人くらいを見込んでいる。油山で行う森のコンサートは、500人くらいの規模で考えている。

◆事務局より外2団体の申請内容について説明・質疑応答

以下、質疑応答内容〔A：委員，B：事務局，団体〕

3 水と緑の楽校

A：樋井川グリーンメイトの活動内容とかなり重なるところがあると思うが、活動の中で既に樋井川グリーンメイトと連携や交流は行っているのか。

B：行っている。

A：「地域環境を担う人材の育成事業」という目的は、長期的な目的だと思うが、短期的な目標については具体的にどのように考えているか。

B：樋井川で活動している団体は多いが、現在それぞれが密に関わっている状況ではないので、私たちの活動を通して、それぞれの団体の繋がりを深めていきたい。

A：物品購入費で30万円程計上しているが、これまでの活動で既に備品は買い揃えているのではないか。

B：これまでも色々物品は購入しているが、今年度から山や植物にも目を向けていくのでこれまで購入していないヘルメットやロープを購入する。これまでは樋井川を中心とした活動だったが、今年度から、川とも関連が深い里山でも活動していこうと考えて

いるので、山の活動に必要な物品を挙げている。その中には、直接環境活動に関係するものではなく、レクリエーション的な要素が強い物もあるが、活動には必要な物である。

A：今までやってきた樋井川での活動で成果が見えたものはあるか。

B：活動への地域住民の参加が増えており、大学と地域と行政の関係が深まったと思う

A：事業名が「地域環境を担う人材の育成事業」ということで、一般的な周知啓発よりランクが上のような印象を受けるが、人材の育成という点で成果があるか。

B：目に見える成果というのは難しいが、地域の方が私たちと一緒に活動することで、自主的にイベントを企画する団体が増えている。

4 ももち浜ワカメ養殖実行委員会

A：この団体は港湾空港局が実施している「博多湾NEXT」とは関係ないのか。昨年度まで補助を受けていた団体が参加しているようだが。

B：ももち浜ワカメ養殖実行委員会は、その取り組みとは直接の関係はない。他の団体との連携については、今後すすめていきたい。

A：この取り組みは、ワカメをきっかけとして、博多湾全体の生物多様性について考える取り組みだと思う。今年度の活動は年2回だが、それ以外の時期にもワカメの効用や健康への効果についてなど取り組みを増やすといいと思う。

A：この団体は将来的にこの活動を続けていくのか。

B：活動の継続は考えているが、本事業を4年目、5年目と活用するのであれば、今の活動に加えて年間の活動や他の団体との連携などの広がりが必要だと思う。

A：計画では、31年、32年は自主財源で実施するとあるが。

B：漁協への協力をお願いしたいと考えているとのことだが、はっきりと決まっている訳ではない。

◆委員による評価

(以下、福岡市情報公開条例第7条第4号により非公開)